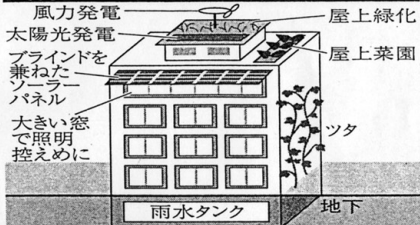


太陽熱で発電、万年草で断熱、雨水ためトイレに

環境共生ビル・グリーンフェロー



ビル五階のガラス窓は外は熱をこぼさず、内は、なぞか、さわやか風がほおをおおえていく。クリアな窓は、屋根を覆うコケ状の万年草「セダム」。断熱効果があり、都会が高温化するビル・トアエリアで現象を減らす。ツタは下現象を減らす。

「普通の積层なら、熱くなる状態になるんですが、夏でもクーラーはいりません。都市景観に、潤いを見せたい」と牧村さん。外壁にはツタも伸びてきて、屋上へ出見上りや、緑色のココナッツ。これは太陽熱と風力の蓄電機があった。自宅部分の基礎

所とどの給湯に使用しているほか「1天の日照、電力会社と電気を買っています」。雨の日や間は発電できないため「電気代の支払いには7千円ほどですが、売れりも約千円ありませう」。

屋上には、約二十五坪の家庭菜園。ナスやカボチャなどが植えられている。無農薬栽培。雑草は虫食いの跡も。肥料は、台所から出たゴミを、肥化したもの。

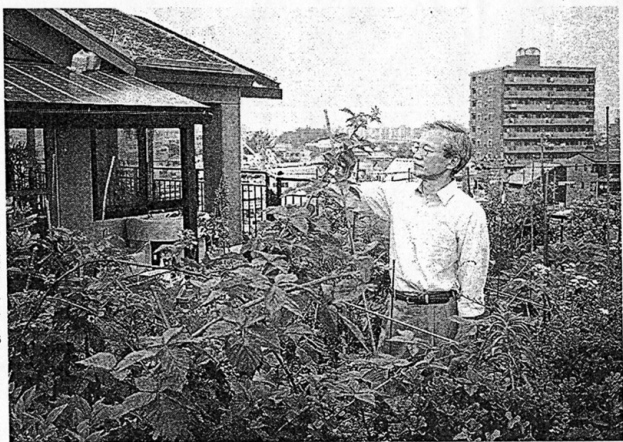
雨水は、地下のタンク（四斗）にため、トイレの水洗や湯の水やり、洗濯に利用。雑草や肥料も屋根材で、足助町の高良民家

北区清水のビル

グリーン・フェロー

自給自足 ワン快適

太陽エネルギーと雨水を効率的に使い、電気や水、食料をできるだけ自給自足しようという環境共生ビルが、北区清水五にある。官庁や住宅が立ち並ぶ都心の一角で、その名もグリーン・フェロー(緑の仲間、の意)。一年半前に、大田市内の機械メーカー社長から転身、名古屋に移住してきたオーナーの牧村好賢(よしひさ)さん宅を、環境に優しく、快適な都市型の生活を提案された」と話している。



『環境に優しい暮らしを提案』

オーナー 牧村さん

から出障材を再利用した。た。魔芋定めた学校の利用や生みのため肥料化など家庭でも上手に取

牧村さんに環境の意識が芽生えたのは、学生時代に水俣病などの公害問題を学んだから。その後、トイレなど環境先進国を取り組むを目的のたりにして、「日本でも環境教育の施設を普及させたい」という思いを、同ビルで、毎月第一土曜日開催の「環境共生」を主催。同ビルで、毎月第一土曜日開催の「環境共生」を主催。同ビルで、毎月第一土曜日開催の「環境共生」を主催。

法策。エコフレンドを通過、第四水準以上。第一日曜日。共生生活のめ方を提案、五階フロアを共有して、とエントランスを一般開放している。関係は環境グループ(CGOC)に限定して入居してもらった。

エコフレンドを通過、第四水準以上。第一日曜日。共生生活のめ方を提案、五階フロアを共有して、とエントランスを一般開放している。関係は環境グループ(CGOC)に限定して入居してもらった。

屋上菜園の手入れをする牧村さん。屋根にはソーラーパネルと室温の上昇を抑える万年草も＝北区清水で